

国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 引用・伝聞の「って」の用法

著者	山崎 誠
雑誌名	国立国語研究所研究報告集
巻	17
ページ	1-22
発行年	1996-03
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00001361">http://doi.org/10.15084/00001361</a>

国立国語研究所研究報告集 17 (1996)

# 引用・伝聞の「って」の用法

山 崎 誠

---

YAMAZAKI Makoto: A Descriptive Study of the Quotative Particle *tte*

## 要旨

1 いわゆる引用の助詞とされる「って」には、大きく分けて引用・伝聞・提題・強調の4つの用法がある。(ここでは、前2者をあつかう)

2 引用の「って」は、発話・思考を提示するものがもっぱらであり、「と」にくらべると用法は限定されている。

3 伝聞の「って」は、「って」が単独で用いられるものと、「(ん)だって」「(ん)ですって」のように複合辞的に用いられるものがある。

4 「(ん)だって」「(ん)ですって」は、いわゆる伝聞(情報伝達)と伝聞の確認(情報確認)の2つの用いられ方をする。これらは、それぞれ情報伝達および情報確認における流れを乱さないように用いられる。いわゆる「伝聞」は、伝聞だけを表すのではなく、伝達・確認というはたらきも合わせ持っている。

5 一方、よく似たかたちで、「(ん)だって」「(ん)ですって」という複合辞が存在する。これには、意外・驚きを表すものと、発話をそのまま提示するものがある。それぞれ、引用・伝聞両方の特徴を持っているが、前者は伝聞的な性質が強く、後者は引用的な性質が強い。

キーワード：引用 伝聞 情報伝達 情報確認 「って」 「(ん)だって」 「(ん)ですって」

## Abstract:

1. Usage of the Japanese colloquial quotative particle *tte* may be roughly classified into four usages, which are quotation, hearsay (*denbun*), thematization, and emphasis. I describe the first two usages here.
2. The quotative usage of *tte* is to express utterance or thought and is restricted compared to its formal form *to*.
3. In the hearsay usage *tte* is used by itself or in the form *(n) datte* (polite form is *(n) desutte*). The latter is a compound particle and has a fixed meaning beyond just a combination of *n*(=*no*) *da* and *tte*.
4. *(N) datte* describes reported speech information. On the other hand, it also confirms the information to hearer by rising intonation. These usages regulate the transmission of information as well as marking quotation.
5. There is an another fixed compound particle *(n) datte* (*(n) desutte*), which expresses two different meanings. One is surprise at the reported speech and the other is a close representation of the original utterance.

Key words: quotation, hearsay, information confirmation, *tte*, *(n) datte*, *(n) desutte*

## 0. はじめに

いわゆる引用の「と」には、単にせまい意味の発話・思考の引用だけでなく、ものごとを列挙する用法、尺度表現に対する主観的意味づけを行う用法などがある。山崎(1993)では、そういう「と」の用法全体をおおう概念として「内容提示」という考えを示した。

ところで、その「と」は、話し言葉のようにくだけた文体では、「って」というかたちで用いられることが多い。この「って」には大きく分けて引用・伝聞・提題・強調の用法が認められるが、本稿ではそのうち引用と伝聞の用法を記述しようと思う。

## 1. 引用の「って」

基本的に引用の「って」は、引用の「と」のくだけたかたち、つまり、文体差であると考えられる。すなわち、

(01) 「おはよう」と言った。

(02) 「おはよう」って言った。

(01)と(02)とのちがいは、あらたまった文体かくだけた文体かのちがいでしかなく、それをのぞけば文の意味は同じである。とくに計量的な調査をしたわけではないが、この差は日常的な言語生活において容易に観察できる事実である。

ところが、「と」が「って」に置き換えられない例がいくつかある。たとえば、とりたての助詞がつく場合である。

(03) 今のところ、手術が成功する可能性は5分5分としかいえない。

この「と」は、「って」に置き換えられない。「ときえ、とすら、とだけ、とでも、とのみ、とは、とばかり、とまで、とも」なども「と」を「って」に置き換えることはできない。そもそも、とりたて助詞にかぎらず、「って」につく助詞は「ね、さ、よ」などの終助詞しかない。これは引用の「って」に限らず、伝聞・提題をあらわす「って」も同様である。これがなぜなのかは、現在のところ説得力のある説明を持ち合わせていないが、たとえば、「って」

の用例に倒置された文が多いこと<sup>(註1)</sup>などを考えると、「って」には終助詞的な性格があると言えるのかもしれない。

また、意図引用とよばれる用法や、名詞にかかっているようにみえる用法は「って」をつかうと不自然である。たとえば、

(04) お金を引き出そうと銀行に行った。

(05) 「わたしも同感です」と村山。

に対して、

(06) ?お金を引き出そうって銀行に行った。

(07) ?「わたしも同感です」って村山。

などの言い方はあまりみうけられないようだ。さらに、

(08) 「どうしたの?」と振り向いた。

のような、「発話+それと同時に行われる動作」というタイプの文にも「って」は出にくいのではないかとおもわれる。

## 2. 伝聞の「って」

伝聞の用法としては、「って」が単独で用いられるものと、「(ん) だって」「(ん) ですって」というかたちで複合辞的に用いられるものがある。

単独で用いられる伝聞の「って」は相対的に少ない。複合辞的に用いられる場合が多いためであるが、また、述語を省略した引用の「って」との区別がむずかしい場合があるからでもある。たとえば、

(09) 初音「お父さんが今度見に来るって」(素晴らしきかな人生)

(10) 遙「……でさ、そいつ夏休みの前に、父兄との懇親を深めるために家庭訪問をやるなんて突然言い出してさ」

結女「大変、掃除しなきゃ」

遙「学級委員長のあたしの所からやるって」(素晴らしきかな人生)

(09)(10)の当該の文がそれぞれ、「お父さんが今度見に来るって言っている」「学級委員長のあたしのところからやるって言うのよ」などの文から述語が省略されたものと考えれば、これらの例は、伝聞ではなく、引用の例となる。とくに(10)のように、前文脈に「言う」などの引用動詞がある場合はそ

の区別がつけにくい。

単独の「って」が明らかに伝聞の意味になるのは、「ってき」「ってね」「ってよ」のように終助詞がつくときである。たとえば次のような例。

- (11) 備後屋「麒麟堂さん、聞いたか？ 寅が大怪我したってよ」

(男はつらいよ 寅次郎の青春)

- (12) 筆美「お父さん、佐竹さんのお母さんから何か届いてるわよ（と小包を差し出す）」

浩太「佐竹のおふくろさん？ —— 開けてみてくれ」

筆美「はい（と封を開ける）」

浩太「（便箋を読んで）巴絵に渡してくれってき、引っ越しの時に出てきたらしい」（娘 36 才 少し不幸せ）

## 2.1 複合辞としての「(ん) だって」「(ん) ですって」

「(ん) だって」「(ん) ですって」が、単なる接続ではなく、複合辞として用いられ、伝聞の意味を表す場合がある。

- (13) 先生が今日うちにいらっしゃるんですって。

この文は、むりやり解釈すれば、次の(14)(15)のような意味にもなるだろうが、通常は伝聞の意味で用いられる。

- (14) 先生が「今日うちにいらっしゃるんです」って（言っている）。

- (15) （誰かが）「先生が今日うちにいらっしゃるんです」って（言っている）。

この「(ん) だって」「(ん) ですって」が、単なる接続ではないということは、次のことから明らかである。

- (16) 太郎は「ネコは苦手だ」って言っている。

- (17) 太郎は「ネコは苦手だよ」って言っている。

- (18) 太郎はネコは苦手だって。

- (19) \*太郎はネコは苦手だよって。（伝聞の意味では不可）

単純な「だ+って」の接続の場合は、(17)のように、間に終助詞を介在させることができるが、複合辞の「だって」の場合にはそれができない。

このことは、引用文における「場の二重性」<sup>(#2)</sup>という特徴からも説明できる。すなわち、(16)(17)における「だ」は太郎の判断を表す表現である。それに対して(18)では「だって」全体が(18)の文の話し手による表現である。

(18)を

(20) 太郎はネコは苦手ですって。

のように、丁寧な言い方にかえたとき、「だって」「ですって」の使い分けは、これらの文(18)(20)の話し手が聞き手に対しておこなっている待遇意識にもとづくもので、元の文の話し手である太郎のものでないことは明らかである。なお、「だって」と「ですって」は、文体的な差であるので、以降「だって」で代表させる。

## 2.2 語形の問題

複合辞の語形として「だって」、「んだって」のどちらを選んだらよいのだろうか。「だって」は、前接語によって形が「んだって」になる場合がある。動詞、形容詞に接続する場合は「んだって」が用いられ、「ん」のない形は、伝聞の意味としては用いない<sup>(註3)</sup>。

(21) 明日、演奏会があるんだって。

(22) お父さんったら、塩と砂糖を間違えたんだって。

(23) あの映画とっても面白いんですって。

しかし、名詞に接続するときは「だって」「んだって」の両方の形がある。

(24) 犯人はあの男だって。

(25) 犯人はあの男なんだって。

(24)は、「名詞だ+って」と見るべきか、あるいは、「名詞+だって」と見るべきか。前者なら、「って」による伝聞となり、次のようなパラレルな関係が導き出せる。「って」は終止形に接続し、「んだって」は連体形に接続しているようにみえる。

(26) あの男だ        って        あの男な        んだって

(27) 演奏会がある    って        演奏会がある    んだって

(28) 間違えた        って        間違えた        んだって

(29) 面白い            って        面白い            んだって

しかし、「あの男ですって」という言い方もある。このことから、「名詞+だって」という見方もあながち無視できない。なぜなら、「あの男ですって」を「あの男です+って」と解釈すると、聞き手に対する待遇意識をあらわす

「です」が、伝聞内容の部分に含まれてしまって、具合が悪いからである。「だって」が名詞に接続すると考えても、それはそれで体系的な説明が成り立つ。「だって」の前の「ん」が名詞と考えられるからである。

本稿では、暫定的に「(ん) だって」「(ん) ですって」のように表記し、どちらの語形をとるかの判断は保留する。

### 3. 引用・伝聞を構成するいくつかの要素について

ここで、引用および伝聞がなりたつためにどのような特徴が必要なのかをみてみよう<sup>(註4)</sup>。

#### 3.1 どういう内容を伝えるか

<言語情報であること>

引用する内容については、とくに制限というものはないが、伝聞の場合には、それが言語情報でなければならないという特徴がある。

(30) 天気予報によると、この週末は雨だって。

(31) (天気予報の傘マークを見て)

明日は雨だって。

(32) (左折しようとして、進入禁止の標識を発見し)

? あー、進入禁止だって。困ったな。

(33) (時計の針が6時をさしているのを見て)

? もう6時ですって。早く帰りましょう。

(34) (店内に蛍の光が流れる)

? あ、もう閉店だって。

(31)のような、傘マーク＝雨というような、固定化した記号は伝聞としてなりたつが、(32)の交通信号、(33)の時計、(34)の音楽などによる非言語的情報は伝聞としてはもちいにくいだろう。

<命題かどうか>

引用の「って」の場合は命題でも語でも内容にできるが、伝聞の場合は命題だけのようである。たとえば、命題ではないような発言を伝聞の内容とすることは無理がある。



(35) 「花」って書いた。

(36) 花だって。

(36)は、何かが花であるということであり（例えば、誕生日のプレゼントが花であるような場合など）、命題を前提にしていると考えられる。

### 3.2 伝え方

#### <ダイクシス表現>

引用の場合は話し手と元の話し手とで相対的に表現が異なる要素（ダイクシス表現）について、元の話し手の立場からでも、話し手の立場からでも表現できる。

(37) A子→B作「それじゃ、明日お宅にお伺いします」

B作→C子「A子が明日 お宅にお伺いしますって言ってたよ」

B作→C子「A子が今日 うちに来るって言ってたよ」（翌日）

(38) かがり「さんざん勉強したんだけど、どこも受からなくて結局コネとカネって言うの？ だから、もしさやかが落ちたりしたら、それもケイヨウの幼稚部かセイトクでなきゃダメなんだけど、桜井の母に、やっぱり私の血が悪いからだって、言われちゃうわけ。私、それだけは言わせたくないのよね」（スウィート・ホーム）

(38)の下線部の「私」が「あなた」でも客観的内容は変わらない。

一方、伝聞の「だって、ですって」の場合は話し手の立場からしか表現できない。

(39) A子→B作：その問題は君にまかせるよ。

(40) B作→C子：A子はその問題は僕にまかせるんだって。

(41) B作→C子：A子はその問題は君にまかせるんだって。

(39)と同じ内容を表すのは(40)で、(41)は「君」がB作ではなく、C子をさしてしまう。

#### <ムード・時制>

引用の「って」はムード・時制に関して特に制約がない。伝聞の「(ん) だって」は過去・否定にすることができず、命題に対する話し手の現在の態度しか表せない。伝聞の「そうだ」も同様に過去形になりにくい。同じようなことは伝聞の「という」にも認められる（井上(1983)）。

#### 4. 伝聞の「(ん) だって」の二つの用法

伝聞の「(ん) だって」には、名前のとおり、よそから得た言語情報を相手に伝えるという機能のほかに、その言語情報が事実かどうか相手に確認するというはたらきもある。後者は、「(ん) だって」に上昇のイントネーションをとまうか、あるいは、「(ん) だってね」のように、終助詞「ね」が付加する。以下に例をあげる。

##### A (第3者からの情報を聞き手に伝達する)

- (42) 筆美「(横に座って) 森本さん、再婚したのね」

浩太「そうらしいな」

筆美「フランス人だって」

浩太「ふーん、何度目だ、あいつは」

筆美「22 も年下なんだって、スゴいわねえ」

浩太「——そうでもないさ」(娘 36 才 少し不幸せ)

- (43) 「何で石原先生を殺すんだ？」

「だって、豊太郎のこと憎んでるんですもの。あの先生ったら、豊太郎のやることを、いちいち信用しないのよ。頭にきちゃう。担任を変えてほしいんだけど、あそこじゃ三年まで同じ先生なんですって。だからちょっと変ってもらおうと思って」(華やかな手)

##### B (第3者からの情報を聞き手に確認する)

- (44) 汗だくでマッサージを続ける石川。

司馬の声「アメリカ帰りだって？」

沢子の声「石川先生？」

司馬の声「張り切りすぎるなって言ってやれよ」

(略)

司馬「しよせん現場を知らないお坊っちゃんだ」

沢子「どうして」

司馬「いくらマッサージしたって駄目なもんは駄目」

(振り返れば奴がいる)

- (45) 小沢「でも、ようございました。回復が早くって……何ですか、倒れられた時には、(卵をつかんで)この位の穴が、胸に開いてたんですって？」  
さくら「(微笑して) そうなの……倒れた時には、本当に、死んでしまうかと思ったわ」(紅蓮華)

(46) 泉「竜さんたちのお母さんは、亡くなったの？」

竜介「俺が小さい時な。だから、あの姉ちゃんは母親みたいなもんなんだ。

頭上がらんわけ」

泉「高校の時悪かったんだってね、竜さん」

竜介「そんなこと話したんか、姉ちゃん。仕様のないおしゃべりが」

(男はつらいよ 寅次郎の青春)

AとBとは、情報という点からみると逆になっている。すなわち、

A：話し手は聞き手がこの情報を知らないだろうと思っている。

B：話し手は聞き手がこの情報を知っているだろうと思っている。

これを、情報の量でみると、次のような関係がなりたつ。

A：話し手>聞き手

B：話し手≤聞き手

なお、イントネーションによる伝聞の確認は、他の伝聞（関連）表現ではできないようである。

(47) ゆうべ地震があったんだって？

(48) ？ゆうべ地震があったそうだ？

(49) ？ゆうべ地震があったとのことだ？

(50) ？ゆうべ地震があったということだ？

## 5. 情報源と情報内容の当事者

伝聞を記述する際には、情報源（話し手が情報を得たところ。いわゆるニュースソース）とその情報内容の当事者とを区別したほうがよい場合がある。情報源と当事者との区別は一見、不必要に見えることもある。次の例をみてみよう。B作が、健一の就職が決まったことを、健一本人から聞いた場合と、A子から聞いた場合との比較である。

(情報源（健一）＝当事者（健一）の場合)

(51) 健一→B作：オレ、就職が決まったよ。

(52) B作→C子：健一、就職が決まったんだって。

(情報源（A子）≠当事者（健一）の場合)

(53) A子→B作：健一くん、就職が決まったんですって。

(54) B作→C子：健一、就職が決まったんだって。

直接、当事者（健一）から聞いた場合でも、間接的に当事者（健一）以外の人から聞いた場合でも同じ形が使える（(52) = (54)）。だから、(52) (54) だけからは、情報源が当事者かどうかはわからない。もちろん、

(55) B作→C子：健一に聞いたんだけど、あいつ就職が決まったんだって。

(56) B作→C子：A子に聞いたんだけど、健一、就職が決まったんだって。

のように、情報源を明示することは可能である。

では、なぜ情報源と情報内容の当事者とを区別するのか、それは次のようなケースに違いが現れるからである。

#### A（伝達）の場合

（情報源（健一）＝当事者（健一）の場合）

(57) ? B作→健一：お前、就職が決まったんだって。

（情報源（A子）≠当事者（健一）の場合）

(58) ? B作→A子：健一、就職が決まったんだって。

(59) ? B作→健一：お前、就職が決まったんだって。

(57) (58) (59)がおかしいのは、すでにその情報を知っているはずである、情報源や情報内容の当事者に伝達することのおかしさである。なお、(59)について、健一が自分が就職が決まったことを知らなければ、これは言える。この場合、健一はその情報の当事者にまだなっていないからである。

#### B（確認）の場合

（情報源（健一）＝当事者（健一）の場合）

(60) ? B作→健一：お前、就職が決まったんだって？

（情報源（A子）≠当事者（健一）の場合）

(61) ? B作→A子：健一、就職が決まったんだって？

(62) B作→健一：お前、就職が決まったんだって？

(60) (61)が言えないのに対して、(62)は可能である。情報源と情報内容の当事者が異なる場合、その当事者に対しては情報確認ができるのである。

なお、(60)(61)について、会話が進むうちに、「お前、さっき就職が決まったって言ったよね」のような「発言の確認」をすることはできるが、これは伝聞ではない。

## 6. 「(ん) だって」を用いる際の語用論的条件

5. でのべたような伝聞が使えるか使えないかの違いは何によるのだろうか。その条件を語用論的観点から考えてみた。これは、「(ん) だって」だけでなく、「そうだ」などの他の伝聞表現でも基本的には同じであろう。

まず、当事者へ伝達できないということについてであるが、これは、

- (63) 自分より詳しい情報を持っているところへその情報を伝えることを避ける。

すなわち、

- (64) 情報伝達の流れに逆らわないこと。

これは、H.P.Grice の会話の格率に還元できるのではないと思われる。

また、当事者であっても、話し手が「相手はまだこの情報は知らないだろう」と思っていれば、伝達することはできる。

次に、情報源へ伝達・確認できないということについてであるが、情報源へ伝達できないことは、先の(63)で説明できるだろう。確認の方は、それができないのではなく、直接相手から聞いた情報を第3者から聞いたようにすることが不適切なのである。だから、伝聞という表現をとらなければ、

- (65) B作→健一：あれ、決まったの？

- (66) B作→A子：え、本当？

のようないいかたで疑問を呈することはもちろんできる。

なお、森山(1995)によると、「自分と相手が直接経験したコミュニケーション内容は「伝聞」扱いしてはならない」という原則が示されている。これも、ほぼおなじことを言っているものである。

また、これと関連して、伝聞表現は「繰り返されない」ということもあげられる。すなわち、

(67) すでにその情報を知っている人に再度伝えることを避ける。

のである。だから、

(68) 「お菓子作りが趣味なんですってね」とよく知人から言われる。

(68)の「よく知人から言われる」というのは、同じ人から何度も言われるのではなく、別々の人たちからそれぞれ言われるということである。

また、情報の価値という観点からすると、

(69) [大雨が降った翌日] 昨日は大雨だったんだって。

(70) [その 100 年後] 100 年前の今日は大雨だったんだって。

(69)のような誰にでも分かると思われる事柄は、一般的に情報伝達する価値のある情報になりにくい。その代わり、情報確認は行いやすい。一方、(70)のような、一部の人にしか分からない種類の情報は、情報伝達する価値のある情報といえよう。ただし、情報確認が行いにくい。

## 7. 疑問詞との共起

伝聞の「(ん) だって」は疑問詞と共起して、伝聞内容をたずねる場合にももちいられる。これは、「そうだ」などのほかの伝聞表現にはない用法である。

(71) 黒柳 (徹子) : そしていよいよテレビ [の時代] になります。

高橋 (圭三) : いや、大変。

(略)

高橋 : これは大変、もう、えー、もう、徳川夢声さんには脅かされますしねー。

黒柳 : 徳川夢声さんのおっしゃったことがまあ、とっても面白い。徳川夢声さん、何とおっしゃったんですって？

高橋 : あなたはね、圭三さん、失業しますよって、こう言われた。あの調子、分かるでしょ。(徹子の部屋)

(72) 医者を見送りに出た和子が、

和子「……どうも、ありがとうございました」

と頭を下げている。

(略)

夏子「お医者さんなん だって？」

和子「ん……疲れがたまってたみたい。熱がひけば問題ないでしょうって」

(夏子の酒)

(71) (72)とも、相手が誰かから聞いた内容についてそれが何であるかをたずねている。通常の疑問文と比較してみるとその違いがわかる。

(73) 会議は何時からですか？

(74) 会議は何時からですって？

(73)は単に会議の始まる時間を聞いているのに対し、(74)は相手が会議の始まる時間を誰かから聞いて知っているはずと考えて質問をしている。

また、相手の話したことを聞き逃した場合や話の内容に即座に反発するような場合にも疑問詞と「(ん) だって」の共起がつかわれる。

(75) [社員研修にて]

こちらは電話の応対の練習中。

男子社員A「はい、〇〇産業様の〇〇様ですね、うちの山下さんですか、あいにく……」

講師「様が一つ多い。うちの山下にさんはいらない。リンとなったらすぐ左手で受話器を取り、右手でメモの用意。もしもしは絶対だめですよ」

講師、ふと見る。浩いねむりしている。

講師、耳元でベルを鳴らす。

浩「(あわてて) はい、木村です」

講師「え、どこだって？」(コンビニエンス・ジャック)

(76) 夫：こんな料理まずくて食えないよ。

妻：え、なんですって！

## 8. 意外・驚きをあらわす「(ん) だって」

「(ん) だって」の用法には、伝聞・引用と関連性はあるものの固定化した用法が存在する。そのうちの2つを8. と9. にあげる。

### 8.1 用例

相手の発話（あるいは文章）の中の一部をその場で取り上げてそれが意外であることを表すもの。場合によっては憤りなども表す。伝聞と違って、ひとりごとで言うことができる。

(77) 「あなたが希望されるならば、このリストのものを全部さし上げておかま

いません、その方が僕にとってはあきらめもつく……」

「あきらめですって？」

奈津子が顔を上げて、

「あきらめてはいけませんわ。(略)」(蒼氷・神々の岩壁)

- (78) 「しかし、ぼくが望んでいるという、具体的な証拠はどこにもないじゃないか。」

悪夢の中でその非合理に自分が極度に小さく感じられる、あの不安から、ぼくは声までが小さくなっていました。

「具体的な証拠だって？ ケッケツ、おかしなことをいうね、ぼくがここにきているということ自体、どうにもならん証拠じゃないか。(壁)

- (79) 私が粉石けんをあげた人たちは、二種類の反応を示した。翌々日ぐらいて電話がかかってきて、

「汚れがよく落ちるんで驚いたんです。(略)」

というのは、戦前を覚えている女性たち。

若い人の返事はこうである。

「先日は有りがとうございました。女房が合成洗剤と同じだって言っていました」

「えッ、同じですって。よごれのとれ方がですか」

「はい、そう言ってます」(複合汚染)

- (80) 郁子「(かすみに気づいて) あ、篠原さん……マンガとか、読む？」

かすみ「え？ うん、好きだよ」

郁子「どんなの読むの？」

かすみ「別マとか……あと、かれん」

郁子「ウッソォ、かれんだって、おとなじゃん。篠原さんなかよしとか読んでそうなのに」(飛べないオトメの授業中)

- (81) 「朝から胸の中がひどくからっぽな感じがしていました。」と僕は説明しました。

「朝からだって！ なぜそれをもっと早く言わなかったんです。」(壁)

- (82) 寛「脅迫しているんだ。脅迫しているんだ。何て卑劣な」

「卑劣ですって？ 御自分が女にだまされていることも気がつかないで私に喰ってかかるなんて、とんだ御門違いだわ」(永すぎた春)

これらは、情報源に対しての確認のようでもあるが、確認の場合と違って、答を期待していない点がことなる。以下、この「意外・驚きの「(ん) だって」の特徴をあげる。



## 8.2 情報源の立場からの表現を話し手側の表現に変えることができる。

(83) カレーを食べながら、その刑事は、「わたしは県警の警部で、小西といいます」と、自己紹介した。「津田です」と言ってから、「警部さんですって？」と思わず訊き返していた。(魔女たちのたそがれ)

(84) 「それじゃ、あなたの職業はなんなの」

道代が訊ねた。

(略)

「今は、あのバアで働いてるわ。その前は、昌彦さんの家のお手伝いをしていたの」

思わず、和子は相手を正面からみつめた。

「お手伝いさんですって……」(結婚の四季)

(85) やがて、箱に字が刻んであるのが見えました。

K. Anten's coffee

コーヒー？ ほくのコーヒーだって？

ほくは驚いてしまいました。いったい何んだっていうんだろう。随分沢山のコーヒーだ。(壁)

(86) 「いや、ほくは君にすこしたずねたいことがあるんだよ。そこらの椅子に掛けない？」「あら、掛けるんですって？ どこも席はいっぱいよ。」(壁)

これらは、次のように情報源の立場の表現が話し手側の立場の表現に変更されている。

警部→警部さん

お手伝い→お手伝いさん

K. Anten →ほく

掛けない→掛ける

## 8.3 ダイクシス表現が話し手の側の調整を受ける。

(87) B作→C子：本当はA子を殺したのは私なんだ。

(88) C子→B作：え、あなたですって！

(89) \*C子→B作：え、私ですって！ ((87)の正解としては不可)

(89)の「私」はこの文の話し手C子を指すから、(87)に対する反応としては正しくない。

## 8.4 類似の表現

その場で目のことに対する反応という点では、その場で反応するオウム返し of 質問に似ている。

(90) 「ねえ、電話をかけてみたら？」

そんな私を、けしかけるように、紀代が言った。

「電話？」

「この葉書によると、死んだのが十二日で、告別式もう済ませたというんでしょう？ きょうは十六日なんだから、この奥さん、家にひとりで、遺品の整理か何かやっているのじゃないかしら？」

(無事永眠)

(91) 朝子「……黒木さん……最近、木曾川歌子さんに会いました？」

壮太「……ああ……ゆうべね……」

朝子「……ゆうべ？」

壮太「新曲の“歳月”がミリオンセラーを記録したんだ。そのお祝いをね、記者連中が集まってやったんだ」(私が殺した男)

(92) 「桜井さん、あさってから伊豆地方の取材があるのよ。3泊なんだけれどね、急で悪いんだけど、同行してもらえないかしら。」

「伊豆？ 雑誌のお仕事ですか？」

私はびっくりして言った。(キッチン)

これらは、

(93) 「電話だって？」

(94) 「ゆうべですって？」

(95) 「伊豆ですって？」

に置き換えてもほぼ同じ意味である。

ただし、

(96) 「電話なんだって？」

(97) 「ゆうべなんだって？」

(98) 「伊豆なんですって？」

と、あきらかな伝聞表現にするとおかしい。自分が目の前の相手ではない人からその情報を得たかのような感じになるからである。

## 8.5 現前性

意外・驚きを表すという性格上、その意外・驚きは現在のものであることが要求される。したがって、過去を表す語句が「(ん) だって」にかかることは無理がある。

- (99) (バーゲンセールの看板を見つけて)  
あ、バーゲンだって。ちょっと寄ってみよう。
- (100) (スーパーのちらしを見て)  
あら、ほうれん草一束 50 円ですって。安いわね。
- (101) (本日開店の翌日)  
?きのう、バーゲンだって。
- (102) (その後)  
?あの時、ほうれん草一束 50 円ですって。

もちろん、伝聞内容に過去のことがらを含むことはありうる。

- (103) (引っ越したのが去年と聞いて)  
去年だって! それは知らなかった。

## 8.6 意外・驚きの「(ん) だって」の特徴

意外・驚きの「(ん) だって」を引用・伝聞の性質にわけて整理してみると、次のようになる。

### 引用的要素

情報源 (元の話し手) が特定される。

陳述度の高い成分にも付き得る (用例は未見)。

### 伝聞的要素

現在のことを表す (現前性)。

話し手 (伝え手) の心的態度をもとに事柄を捉え直して伝える。

ダイクシス表現は話し手 (伝え手) の立場からのものに調整されやすい。

## 9. 情報源の発話をそのまま提示する「だって」

### 9.1 用例

- (104) 夏子「こんにちわ。穴山さんが心当たりの学生はすべて当たったから後

は青木クンに任せるって。それから自分の部屋だけでもいいからちゃんと掃除するように、だって」

青木「ハイ」（シコふんじやった。）

- (105) 地区長「とにかくあの部屋にこもってさ、彼の帰りを三日も待ってるんだから。お願いだから地区長さん、給料全部差上げますから代わりに店へ出て下さい一生のお願いですだって。私言ってやったの。人が好いのもいいかげんにしな。あんな男、いくら待っても帰ってきやしないよ。だいたい芸能記者がこんな煤けた町に居るもんか。ダメされたんだよ。あきらめな。って」（私が殺した男）

- (106) 実郎「いやがらせ？」

志津江「そうよ。人の道を知れ、だって。人の道ぐらい知ってるわよ。汚い手使いいでよッ。（とパッと改札口の方へ戻る）」（チロルの挽歌）

- (107) 翠「お陰で文子さんまで一緒に退学させるハメになってしまっ……」

文子「いけないのは日本女子大の先生方だわ。カチカチの石頭。あれが男子学生の書いたものなら問題にもならないのに、女子大生の分際で文芸誌に小説を載せるとは何事だ！ ですって。でも、素敵な思い出だわ。自主退学なんて痛快だったもの」（29歳）

- (108) 「今日ね、うちの母が、女中にお風呂の手桶のタガを、磨き砂でみがいておけ、って言いつけたのよ。そうしたら女中が、ちっとも磨いていないじゃないの。母が、どうして言うとおりにしないの、って怒ったら、女中の返事がふるっているの。

『一寸磨きかけたら、光って来ましたから、やめました』ですって」（永すぎた春）

- (109) 「そしたら、正覚坊、高女の方には庭球部があるんですってねえだって。」  
（現代語の助詞・助動詞）

これらは、情報源の発話になるべくそのまま表そうとするものである。

聞き手目当ての表現（命令、丁寧、終助詞など）も内容に含むことができる。単なる引用の場合もあるが、情報源の発話を非難めいて取り上げるような含みがある。

なお、この場合の語形は「だって」「ですって」であり、「んだって」「んですって」という形はとらない。

## 9.2 ダイクシス表現は、話し手側のものに変更するのがむずかしい。

(110) A子→C子：あなたってホントにお人好しねえ。

(111) C子→B作：A子ったら、あなたってホントにお人好しねえ、ですって。

(112) ?C子→B作：A子ったら、私ってホントにお人好しねえ、ですって。

(112)を(110)の意味でもちいるのはやや無理がある。通常は(112)の「私」は「A子」のよみである。

## 9.3 発話をそのまま提示する「だって」の特徴

発話をそのまま提示する「だって」を引用・伝聞の性質にわけて整理してみると、次のようになる。

### 引用的要素

情報源（元の話し手）が特定される。

陳述度の高い成分にも付き得る。

情報源（元の話し手）の心的態度をそのまま伝える。

ダイクシス表現は情報源（元の話し手）の立場からのものに解釈されやすい。

### 伝聞的要素

現在のことを表す（過去を表す語句がかからない）。

## 10. 今後の課題

以上、「って」の用法を伝聞と引用というかわりからみてきたが、「って」には、これ以外にも、提題や強調の用法がある。これらとの関係も記述しなければならぬだろう。また、「と」と「って」の用法が重なる部分については、文体的にどのような分布をしめしているのか、統計的な調査も必要だろう。さらに、「という」に相当する連体修飾の「って」については「という」との比較を試みる必要がある。今後の考察の課題としたい。

### 注

注1. 倒置の例（次例など）が多いのは、話し言葉で用いられるせいもあるのだろう

う。

- (113) 文夫「彼女がね、ずっとやってくれるって言うんですよ、店の方。いや、女房もね、ずっと前から言ってたんですよ。彼女になら将来店を任してもいいって」(復活の朝)

注 2. 「場の二重性」という概念は砂川(1988)にくわしい。

注 3. (21)を、

- (114) 明日、演奏会があるだって。

にすると、これは伝聞の意味ではなくなる。後述の 9. の情報源の発話をそのまま提示する「だって」の意味になる。

注 4. 中島(1992)では、引用と伝聞のちがいとして、次のような特徴をあげている。

引用

元の発話者が特定される

陳述度の高い成分(命令、疑問、意志、勧誘など)に付き得る

それ自体タ形となる

元の発話者の心的態度をそのまま伝える

伝聞

元の話者が特定される必要がない

陳述度の高い成分(命令、疑問、意志、勧誘など)に付かない

それ自体タ形にならない

伝え手の心的態度をもとに事柄を捉え直して伝える

## 参考文献

- 井上和子(1983)日本語の伝聞表現とその談話機能,「言語」,12巻11号  
鎌田 修(1988)日本語の伝達表現,「日本語学」,7巻9号  
神尾昭雄(1990)『情報のなわ張り理論』,大修館書店  
砂川有里子(1988)「引用文における場の二重性について」,「日本語学」,7巻9号  
寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 II』,くろしお出版  
中島孝幸(1992)不確かな伝達—ソウダとラシイー,「三重大学日本語学文学」,3号  
森山卓郎(1995)「伝聞」考,「京都教育大学国文学会誌」,26  
山崎 誠(1993)引用の助詞「と」の用法を再整理する,「研究報告集」(国立国語研究所),14

## 資料

「男はつらいよ 寅次郎の青春」山田洋次(他)「シナリオ」93年2月号

『壁』安部公房 新潮文庫  
『キッチン』吉本ばなな 福武書店  
「紅蓮華」沖島勲（他） 「シナリオ」93年4月号  
「結婚」桃井章 「シナリオ」93年6月号  
『結婚の四季』平岩弓枝 講談社  
『現代語の助詞・助動詞』 国立国語研究所 秀英出版 1951年  
「コンビニエンス・ジャック」当摩寿史 「シナリオ」92年3月号  
「シコふんじゃった。」周防正行 「シナリオ」92年2月号  
「スウィート・ホーム」西荻弓絵 「ドラマ」94年2月号  
『蒼水・神々の岩壁』新田次郎 新潮文庫  
「チロルの挽歌」山田太一 「ドラマ」92年5月号  
「徹子の部屋」テレビ朝日 1989年11月20日放送  
「飛べないオトメの授業中」村井貞之 「ドラマ」94年2月号  
『永すぎた春』三島由紀夫 新潮文庫  
「夏子の酒」水橋文美江 「ドラマ」94年2月号  
「29歳」筒井ともみ 「ドラマ」92年3月号  
「復活の朝」吉田求 「シナリオ」93年1月号  
『華やかな手』曾野綾子 新潮文庫  
『複合汚染』有吉佐和子 新潮文庫  
「無事永眠」佐野洋 角川書店『ザ・エンターテインメント1982』所収  
「振り返れば奴がいる」三谷幸喜 「ドラマ」93年3月号  
『魔女たちのたそがれ』赤川次郎 角川文庫  
「娘36才少し不幸せ」水谷龍二 「ドラマ」93年5月号  
「私が殺した男」池端俊策 「ドラマ」93年10月号